

愛知県感染症情報

平成 12 年第 10 週（3 月第 2 週）

（コメント）

感染性胃腸炎は定点当たり 9.7 人と増加傾向にあります。

A 群溶血性レンサ球菌、水痘は、報告数が増加しています。

今年に入ってから三河平野部で伝染性紅斑の報告が多くなっています。

（先生方からのコメント）

- ・ 園児から学童まで感染性胃腸炎が大流行しています。
ロタ抗原(+) 4才8ヶ月男
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)
- ・ 白色便が増えてきました。4才の溶連菌感染症は、莓舌・口囲蒼白が見られ、しょう紅熱の状態です。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 感染性胃腸炎が依然認められます。
(西尾市 山岸こどもクリニック)
- ・ ロタウイルス 6名(0才男、0才女、1才男3名、2才男)
インフルエンザ Fl uA(+) 1名
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O-1 VT1(-)
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O-18 VT1、VT2(-)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 2/28~3/5(第9週)における14才(女)感染性胃腸炎はカンピロバクター陽性。本児の弟はカンピロバクターと病原性大腸菌の混合感染であった。
(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)
- ・ カンピロバクター 2才男 (スシ食べた?)
帯状疱疹 3才女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 水痘症が急に増えました。
(岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
- ・ ロタウイルス感染が数例あり。感冒性胃腸炎も年長児にみられた。
(田原町 かわせ小児科)

- ・ 感染性胃腸炎ロタ(+) ~ 12ヶ月男・女各 1 例
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ 伝染性紅斑というのは、こんなによくある病気だったのでしょうか。
(蒲郡市 鈴木小児科医院)
- ・ 細菌性腸炎8例
カンピロバクター - 腸炎 2 例 (2才女)、(12才男)
病原性大腸菌0-6 (2才女) 0-25 2 例 (11ヶ月女、2才男)
0-1 (8ヶ月男)、0-126 (1才男)、0-18 (3才女)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ 百日咳 (4ヶ月女) D P T (三種混合) 未接種
(豊田市 やふそ小児科)
- ・ ロタウイルス(+)の腸炎まだ流行。脱水、マヒ性イレウスでの入院例多い。
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ RS ウイルスの細気管支炎の乳児が目立ちます。
(東海市 東海市民病院)
- ・ 学童、幼児のインフルエンザは認めず、成人で散発。
嘔吐、下痢、成人、小児共に目立ちました。(1 才男カンピロバクター、
病原性大腸菌 (0-114) 共に陽性)
水痘、突発発疹いづれも流行続いています。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ ロタウイルスによる嘔吐下痢症が目立ちます。
細気管支炎 (RSV 陽性) 8 ヶ月女
A 型インフルエンザ 8 名
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 0~2 才児にロタウイルス感染症が 2~3 人散見された。
(豊明市 豊明団地診療所)
- ・ ロタウイルス腸炎、11 ヶ月女 (糞便ロタウイルス抗原陽性)
糞便アデノウイルス抗原陽性腸炎 2 名 (5 才女、8 才女)
先週のインフルエンザ A は 1 才男 1 名、1 才と 3 才の女子 2 名の計 3 名
- ・ 流行性耳下腺炎 1 施設で流行
(一宮市 後藤小児科医院)
- ・ 急性胃腸炎多し ロタ以外。アデノ様疾患散発しています。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

- ・ A 群溶連菌感染症、嘔吐下痢症が相変わらず流行しています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

(1 ～ 3 類感染症の発生状況)

発生はありません

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

アメーバ赤痢患者 1 名

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者 1 名

第 8 週 (平成 12 年 2 月 21 日 ～ 2 月 27 日) の 4 類感染症の全国状況
インフルエンザは定点当たり報告数が先週に続き減少している。今シーズンの流行曲線はピークが昨シーズンをやや上回ったが、流行期の幅は昨シーズンより短くなりそうである。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。水痘は九州地方と沖縄県、山形県、静岡県などで定点当たり報告数が多くなっている。麻疹は大阪府下で依然患者報告数が多く、千葉県、神奈川県でもまとまった数の患者報告数がある。非流行期の咽頭結膜熱の定点当たり報告数も例年より多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2000 年 1 月 28 日号 (75 巻 4 号)

集団発生：シェラレオネの赤痢：99 年 11 月から集団発生。本年 1 月までに 3,094 例 (132 例死亡)。12 月下旬の材料からパスツール研で *Shigella dysenteriae* 1 が分離された。WHO による緊急対策が進められている (注：政府軍対反政府軍の熾烈な内戦中で衛生的にも悲惨な状況におかれている西アフリカの国)。ブラジルの黄熱病 (その後の状況)：2000 年はじめに 61 例の臨床診断例発生、5 例は検査室診断で確定され 48 例について検査中。死亡例 5 例を含む罹患例は全例黄熱病常在地の農山村で罹患していて都市型黄熱病の発生はないと思われる。

ポリオ根絶計画：チャド (中央アフリカ)。ポリオワクチン接種率はこの 10 年間 40% 以下、98 年から全国一斉接種日を実施、5 歳未満の小児の 90% 以上が接種されたと報告。ポリオ様の急性弛緩性麻痺の報告と患者からの便材料収集とウイルス検査は実施困難で数例の検体からポリオ 1 型野生株が分離され、99 年には報告数 182 例、33 例から野生株ポリオウイルスが分離されている。

インフルエンザ：ベルギー、クロアチア、チェコ、フィンランド、ドイツ、香港、イラン、ラトビア、ノルウェー、いずれも A 型 H3N2、中国やドイツ、ノルウェーでは一部 B 型。

1 月 21 - 27 日届出。コレラ：ケニア。黄熱：ブラジル。

2000 年 2 月 4 日号 (75 巻 5 号)

集団発生：コレラ：グアテマラで 99 年 12 月と 2000 年 1 月に集団発生あり。その後発生終息。マダガスカルで 99 年 4 月から同年末までに 6,983 例 (死亡 433 例) 報告、さらに雨期に入った本年 1 月には 3,176 例 (死亡 121 例) 報告されている。

赤痢：レソト (南アフリカ) で昨年 11 月から本年 1 月 15 日まで 1,862 例 (死亡 28 例)、小児より成人が重症傾向あり。現在流行は消褪中。

A 型肝炎ワクチンに関する WHO の指針。現在入手出来るワクチンの有効性と安全性は優秀。地域の流行状況で接種を考慮する：途上国では殆どの住民が小児期に不顕性感染で経過して免疫を獲得しているので、他のワクチンが優先。流行のない先進国では A 型肝炎ウイルス感染に関してハイリスクの群に重点的に接種：旅行者、男性同性愛者、静注薬剤常用者など。周期的に発生がみられる地区では流行に際して地区単位の接種が一般的な健康教育、衛生対策と同時に実施されるべきであろう。

インフルエンザ：本年 1 月。オーストリア (AH3N2)、ドイツ (AH3N2, 一部 B)、ポーランド (高齢者で死亡 2 例)、スペイン (AH3N2)、マケドニア (AH3N2)。

1 月 28 - 2 月 3 日届出。コレラ：マダガスカル、グアテマラ。黄熱：ブラジル。